

武田 典久 議員



一問一答方式

- ① 阿蔵高山建設残土処理場
- ② 観光施策
- ③ 地域課題とスポーツ

阿蔵高山建設残土処理場について

問 阿蔵高山建設残土処理場への土砂の搬出入については、今後1日最大150台、往復300台のトラックが行き交うとのことである。さらに一部区間は玉川・只越地区の肱川築堤工事と重なっており、多くの工事車両が道路を占拠し、安全な通行の妨げになるのではないかと不安の声があるが、どのような対策をとられるのか。

答 交通安全対策については、ダンブ運行業者等への交通安全教育

の徹底、指導を行うとともに、市民の皆様への広報「大洲」での周知、小・中学校での交通指導を行っています。また、ダンブの通行量の分散を図る目的で、10月上旬より海岸回りのルートを新たに追加することとしています。

また、市道阿蔵高山線を延伸し、市道大洲上須戒線と接続することにより、只越地区の交通量の軽減を図るよう計画しており、今議会において測量設計に要する予算を上程したところです。また、国土交通省が進める河川整備工事に伴う工事車両等については、国土交通省に対し、地元車両の優先を徹底するとともに、工事区間には交通誘導員及び臨時信号等を配置するなど、万全な交通安全対策並びに地域への影響を軽減する施工計画について要請をしていきます。

観光施策について

問 大洲にはまだまだコンテンツが少ないと感じている。これから大洲の観光が目玉され、古民家ホテルへの宿泊客が増えても、楽しめる

上質なコンテンツが限定的であれば、リピーターはおるか一度でも訪れる価値がないと判断されかねない。早急に観光メニューや、特に体験型のコンテンツを提供できるようにしなければならぬが、どのような方法でそれを実現する考えなのか。

答 具体的には、大洲、内子の地域DMOである一般社団法人キタ・マネジメントと内子町観光協会が瀬戸内観光推進機構のアドバイスを受けながら地域独自の観光資源を見直し、これらを生かした旅行商品の開発を行い、連携する民間事業者と共同開発した商品を活用できる事業者の育成や参入を促す仕組みを確立して、将来的には観光による地域経営を目指していきたいと考えています。

地域課題とスポーツについて

問 地域課題に取り組む際に地域資源をどれだけ上手に利用できるかがポイントであると考えている。レジャーとしての肱川利用については、今後さらに市民の皆様や観光客の方々に肱川でのカヌー、SUP体験を広めていきたいとの思いは市に

おいても共有いただけると思っているが、その上での課題をどのように認識されているのか。

答 肱川はカヌーを気軽に楽しめる自然環境を備えており、大洲カヌー同好会へのホリデーインカヌー業務を委託、教育委員会でのカヌー艇貸出事業とあわせた利用者は年間450人程度となっています。また、近年は新感覚の水上スポーツSUPの体験も好評を博しており、新たな観光資源としての魅力が広がっているものと捉えています。

一方、課題としては、駐車場や更衣室、シャワーといった利用者を受け入れる環境の未整備が挙げられ、これらの問題が民間事業者の参入を難しくする要因の一つになっています。今後これらの課題を解消するために、肱南公民館の改築にあわせ、カヌーにより肱川と触れ合うことのできる施設や必要な設備の整備を検討していきたいと考えています。

